

朝日山だより



♪音楽活動の様子♪

☆ピクニックの様子☆



社会福祉法人 あさひ会

生活介護事業所 朝日山学園・グループホームあさひ

ヒューマンサポートタッチ

佐賀県東部発達障がい者支援センター結

〒841-0073 佐賀県鳥栖市江島町字西谷3300-1

TEL (0942) 84-3266

(0942) 81-5409 (支援室)

FAX (0942) 84-3286

E-Mail : asahiama@grace.ocn.ne.jp

“普通”に生きたい

理事長 上尾 央子

「まだ歩けないんですか?」「喋れないんですか?」4才になる息子(洋一)を見て話しかけてくださる人の心は、おそらく同情だったと思います。でも、私にとっては鋭い刃で刺されたようなショックで、この子を抱いて消えてしまいたい、そんな気持ちでまわりを気にしながら立ち去ったのです。これは53年前の私の姿です。

歩けない、話せない、みんなと違う、“普通”じゃない、どうして私の子だけが…と。はじめて授かった息子をどう育てればよいか、迷いと焦り、戸惑いの交錯する毎日。『この子は障がいを抱えて何が出来るのだろうか。この子が生きていく道はあるのだろうか。この子は生きる価値があるのだろうか。』次々と出てくる不安。『いやきっと生きていける道はある筈だ。生きて行かねばならないのだ。』しかし現実には、人目の少ない早朝に幼子を起こして歩行訓練をしたり、到達できないだろう“普通”になることが目標でした。

でもその後、こんな私の迷いや不安を一掃させてくれる日が来たのです。それは、息子が校区の小学校に入った日から始まりました。

ある集団下校の日のことです。途中、郵便局に用があった私が「洋一も連れて行くからここでお別れね」と言った時、「おばちゃん、それは違うんじゃない?おばちゃんは郵便局に行ってもいい。でも洋一は集団下校の途中やから僕達と一緒に下校するのが本当やろ!」と。私は一瞬頭をガーンと叩かれた思いでした。何気なくやっていた事が、息子を障がいがあるからと特別視していた事、私の生活基準に合わせていた事、一人の小学生として認めていなかった事等を教えられた一日でした。

友達とのこんな関わりも、一朝一夕にできたとはいえ多くの問題を含みつつすすんだのですが、月日と共に日常のみならず、旅行、運動会、文化祭等々どうしたら洋一が参加できるのかと自分達で考え工夫してくれるようになりました。

こんな日々の中で、障がいがあってもそれを受け入れてくれるまわりがあれば自然体で生きられるのだ、そして、これが“普通”に生きることなんだと知りました。

息子は学校では“障がい児”というより洋一という“普通”の子でした。奇異の目や同情で見られることなく友達の真中で大声で笑っている

姿を見る時、この場は本人にとっても自分の力を十分に発揮できる場であるのだと思いました。

でも、参観日は針の筵。こそこそ、ひそひそ…。ところが一人のお母さんが、「兄弟4人いるんですが、この子が一番やさしく成長してくれました。きっと洋一くんのおかげだと思います」と。友人達は、物言わぬ息子との関わりの中から思いやりの心を学びとってくれたのだ。そして、息子が仲間として存在したこと自体意味があったのだと知り、嬉しくなりました。

それから半世紀、地域の中で出来るだけ親子で溶け込むことを心がけて来ました。同時に今自分が住んでいる町が、障がいのある人たちが当たり前に“普通”に生きられる街になるように願ってきました。

今、息子はふる里の街に作った日中活動の場とグループホームで寄り添って頂くスタッフやヘルパーの皆さんと共に喜々とした日々を送ります。

母体である社会福祉法人あさひ会も創立してはや25年目です。4年振り突然引き受けた理事長の大役、一つの山場を迎えた法人が、これからどの様に成長していくのか。コロナ禍をはじめ福祉に対する厳しい状況下、私に何が出来るのか迷いと不安で一杯です。

今後も、障がい者を取りまく問題は途切れることなく続くでしょう。しかし、基本は利用される方々がその障がいから来る重さを感じることなく“普通”に生きていけるように、そして、ワクワク感のある毎日を送って頂けるようにと思っています。

創設期の熱い勢いを思い出しながら、法人全体が一体となって考え合いつつ取り組まねばならない一年だと改めて思っています。



～日中支援の現場から～

『作業室の視覚的構造化について』

朝日山学園 係長 古川 聖子

令和2年度、朝日山学園の作業エリアは、同じテーブルの空いた席でリサイクル作業やワーク活動を個人やグループで自由に取り組む環境になっていました。しかし、この環境で活動を続けていくと、ある課題が

生じました。作業やワークの時に周囲の環境が気になり集中できない事や、終わりが分からなくなってしまう、スタッフが声かけや次の動きのカードを示して行動を伝えないといけないケースも増えてきました。そして、今まで支援で大事にしてきた、利用者の方が「わかる」「できる」機会が減ってきている事を痛感させられました。その為、改めて現状を見直し、視覚的に分かりやすい環境を利用者の皆さんに提供できるように新年度の開始に合わせ構造化を行いました。

まず、利用者のスケジュールエリア、ワークエリア、ペットボトル作業エリア、集団エリアと空間を分けました。空間を区切ることで利用者の方に活動場所が明確に伝わりやすくなりました。

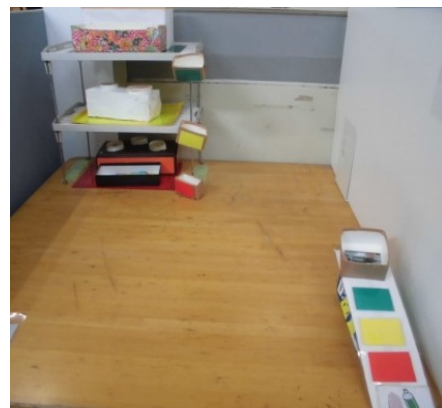


個別ワークエリア

特にワークエリアは、自分の場所や物が分かりづらい課題から、パーテーションを立て、個別のエリアを設置し、その利用者に合わせたワークの提供や、終わったら次に何があるかなど、視覚的に分かりやすくシステムを導入して利用者の方が見通しを持って活動に取り組めるようにしました。

ワークエリアの変更に伴い、Uさんの様子の変化を紹介します。Uさんは昨年、作業テーブルの一角でワークに取り組んでいました。同じテーブルで数人で取り組んでいると、他者との活動の区別がつきにくいのか、隣の方のワークを自分の所に持って来て始めたり、自由に棚からワークを持ってきて好むワークを繰り返し行い活動が終われない様子も見られ、活動のメリハリがつきにくい様子でした。またUさんにとって整理されていない環境は、時にワークに集中出来ずに、周囲の刺激に突き動かされ離席することも度々ありました。

今年度、個別のワークエリアで活動に取り組むにあたり、「いつ・どこで・何を・どのくらい・いつまで・終わったら何があるのか」を明確にしたことで、Uさんはスタッフが介入しなくても、自立行動がとれるようになりました。今は目の前のすべき事に集中して取り組み、自信を持ってワーク活動に取り組むことができています。



Uさんの個別エリア

今回、館内の構造化を行うことで、Uさん以外でも自立行動がとれていける利用者の方の様子が多々見られてきました。

今回の構造化は改めて支援の原点に戻り、利用者の方の特性に合わせた環境を意識して取り組みました。そして、視覚的に分かりやすい環境やシステムがいかに関者の方々の安心感や自信、自立活動につながるのか、改めて利用者の方々の変化から学ばせて頂く事ができました。

今後も利用者の方が伝えてくれる言動や声に耳を傾けながら、利用者の方の状況に合わせて再構造化を展開できる柔軟な姿勢と利用者の方を中心に沿えた支援を心掛け、謙虚に向き合っていきたいと思っております。



～支援での良い発見！～

『H氏の休憩時間の出来事』

朝日山学園 生活支援員 林 裕之

H氏の休憩の過ごし方はその時々でブームがあり、余暇の道具もご自身で管理されておりました。ラジカセが故障しても、いつものようにラジカセとCDを持ってきてベンチに座っています。その際、壊れたラジカセをスタッフの所に持ってきて指を差してCDが聴けない事を訴える動きが見られておりました。

そんなH氏の様子から、少しでも周りの方に伝わりやすく意思を出せる機会が作れたら良いなと感じ、新しいラジカセに交換するタイミングで、スタッフを介してラジカセとCDを借りる機会を設けました。H氏も新しいラジカセを購入すると、いつ音楽を聴けるか楽しみで気になっていたもので、スケジュールにラジカセのカードを提示してお伝えしました。

作業が終わりスケジュールからラジカセのカードを取ると、スタッフを探し、カードを渡しに来られます。カードと交換で、スタッフがラジカセとCDの入ったカゴを持ってくると、その時の気分で「ウルトラマン」や「仮面ライダー」のCDを選びベンチで聴かれます。好きな曲の時には、手拍子をされ笑顔です。



最近、休憩時間中にCDジャケットのキャラクターを指さし、選曲の訴えがありました。スタッフが「どれですか?」と聞き返すと、「タロウ」「エース」と小さく声を出され、少しずつですが、スタッフに意思を伝えてくれています。そのような場面に居合わせる時に、支援者として嬉しさを感じます。

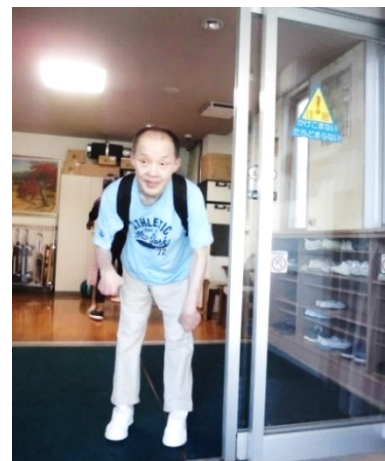
今回の取り組みを通して、休憩時間の様子に良い変化が見られました。意思表示をする事でK氏の本当の気持ちを感じる事ができ、良いやりとりに繋がっていると思います。また、休憩前後の活動にも意欲的に取り組む姿勢が見られています。今後も、本人の意思を汲み取る事を支援する上で大切にしたいと考えています。

『Y氏のカバンを背負う動き』

朝日山学園 生活支援員 鈴木 あい子

近年、年齢を重ねたY氏の身体機能に衰えが見られるようになり、日中活動の中で、前傾姿勢になられることや、歩行時に足首の動きが硬くなり転倒につながる場面が増えました。そこで、スタッフ間で話し合い、まずは姿勢を少しずつでも良くしていける様に背筋が伸び、視線が上がる様な動きをY氏の日中活動にのちに取り入れられないかと考えていきました。

具体的には、登園・降園時間、リュックの取っ手を片手で握り移動されていたので、重心が前にいかないようにリュックを背負って歩いていける様に取り組みを行いました。リュックの取っ手を持つことが定着していた為、はじめは肩紐を腕に通すのを嫌がり大きな声を出して拒否されました。しかし、その後も短い距離でも、リュックを背負うアプローチを毎日行い、Y氏がリュックを外したら終わりを繰り返し、リュックを背負っている時は、周りのスタッフも「かっこいいですね」「凄いですね」と前向きな声掛けを積極的に行いました。するとY氏の反応も笑顔が増え、カバンを背負う事への抵抗も減ってきている様子が感じられました。



現在は、送迎車と作業室ロッカーの間の距離をリュックを背負い歩くことが出来ています。今までより背筋も伸び、顔も上がり、前かがみだった姿勢も少し良くなりました。同時に前のめりだった歩き方も、重心が後ろにいき、歩く時の足も上がってきました。

少しずつではありますが、本氏が健康的に生活できるよう、支援として何ができるのか考え続けることが出来たらと思います。

～行事関係～

『GW 祝日企画、ほうきホッケー』

朝日山学園 生活支援員 有働 寿美子

毎朝登園されて、床のモップ掛けのお仕事に取り組まれているK氏。前後の動きを繰り返す事が得意で前に進むことは難しかったのですが、経験を重ねるごとに前に進んで床掃除ができるようになりました。

そこでK氏に焦点を当て、モップやほうきを使ってアイスホッケーならぬ「ほうきホッケー」を祝日に企画し、実施しました。

新聞紙を丸めたボールをフリースペースに広げ、段ボールで作成したゴールへ目がけてほうきやモップで入れてもらいます。1個ずつ入れられる方、まとめて全部入れられる方、皆さんの個性が見えました。段ボールを持っていただいた利用者の方は、他の方がゴールしやすいように角度を変えてくれる方もいました。

K氏にも順番が回ってきましたが、最初は戸惑う様子でモップを渡しても中々受け取ってくれません。しかし時間が経っていくと、周りの楽しそうな雰囲気を感じ取られたのか、次に順番が回って来た時には、モップを手に持ち、スタッフと一緒にゴールめがけて動かす事ができました。周りの皆さんから拍手をもらい、K氏も嬉しそうな表情でした。日頃から取り組んでいたモップ掛けを、今回のほうきホッケーで活かす事が出来ました。

祝日のほうきホッケーの企画が終わった次の日からも、作業室や廊下の直線を元気な様子でモップを掛けてくれて、スタッフから称賛や感謝の声かけに応えながら毎日頑張られていました。

K氏は7月末で学園を退所され、8月から新しい事業所へ移行されましたが、スタッフ一同、K氏のこれからのご健勝をお祈りいたします。

これからも、日々の支援から利用者一人ひとりの得意な事を見つけていける観察力を養いながら、利用者の方々に楽しんでいただける活動の企画につなげていきたいです。

※この原稿はK氏の保護者様に承諾を頂き、掲載させていただいています。



～保護者より～

『きょうだいの想い』

家族代表 古川 和博

兄が朝日山学園でお世話になり、24年が経ちました。平成12年にグループホームへ入居しました。おそらく、朝日山学園の利用者の中で最もグループホームを利用させていただいているのではないのでしょうか。

兄がグループホームに入居し、離れて暮らしているとどうしても関わりが薄くなっていく様に感じてしまいます。顔を見せることで、重い障がいを持った兄も家族の存在を認識出来るのではないかと思います。不定期ですが、週末の休日に息子2人（兄からみると甥）を連れ、兄の顔を見にグループホームを訪ねています。

コロナが流行する以前は、グループホームのリビングで一緒におやつを食べたり、兄が好きなメロディボードを届けたりするなど、ホームの室内で一緒に過ごす時間を作ることもできていました。しかし、コロナ渦の中、感染を防止する観点から入館の制限もあり室内で会う事は難しくなってきました。最近、面会の時はグループホームの敷地内を、兄、息子、私の4人で歩いています。散歩に誘った際も、兄も嫌がる事なく息子と一緒に歩いてくれています。息子二人も最初は兄の素早い動きや行動に戸惑いの様子も見られていましたが、面会を重ねるにつれて「おじちゃん、今日は気分が良さそう」や、散歩後に兄がジュースを飲む様

子を見て「やっぱり早いね」など、兄について話す機会が増えました。言葉の会話がなくても、兄から色々な事を感じ取ってくれていて嬉しく思います。

これからも、私を含め、兄と関わる機会を作ることも続けていながら、家族として兄の生活を見守っていきたいと思います。兄がグループホームの生活や、学園の日中活動を通して、毎日を安心して、安全に過ごしてくれる事を願っています。

最後に、グループホームや朝日山学園で健康で豊かな毎日を送らせていただけているのも日頃からの温かい支援があったからだと思います。感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも兄共々ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



◎寄付者ご芳名

令和3年2月～令和3年7月

末藤 久美子 様 ・ 松本 知子 様 ・ 上尾 央子 様
 廣重 富美子 様 ・ 福島 ツル子 様 ・ 古澤 文雄 様
 藤井 孝子 様 ・ 小林 幸子 様

上田歯科医院の募金箱に募金頂いた皆様

医療法人野田内科設置の募金箱に募金頂いた皆様

以上の皆様にご支援いただきました。ありがとうございます。



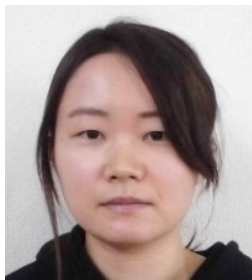
☆ロッキングチェアを探しています

利用者の方が休憩中に使用するロッキングチェアを探しています。使用されていない物がありましたら、お譲り頂けないでしょうか？ご連絡お待ちしております。 (朝日山学園支援室



TEL : 0942-81-5409 担当 田中)

～新しい職員の紹介～ ☆朝日山学園☆



○堀下 香菜子さん

今年度 4 月に入職しました。堀下香菜子です。利用者の方が楽しく過ごして頂ける様な支援を心がけたいと思います。よろしくお願いします。

▣編集後記

支援を取り組む中で、利用者の方の良い反応を見たり、新たな発見をした時にやりがいや喜びを感じ、そこから学ばせていただくことも多くあります。今後も利用者の方の可能性を信じ、笑顔や新たな一面が増えていけるように、スタッフ一同取り組んでいきたいと考えています。

(田中)

2月～7月行事等【朝日山学園】

2月	5,19	ケース検討会(19中止)
	12	ケース会議
	17	献立会議
	19	虐待防止委員会(中止)
	24	誕生会
	26	職員会議
3月	5	ケース検討会(中止)
	12	ケース会議(中止)
	17	献立会議
	19	ケース検討会,サービス管理責任者更新研修
	24	誕生会
	26	職員会議(中止)
	29～31	利用者春季休暇
4月	2,10	ケース会議
	16	担当者会議,施設長会議
	23	職員会議
	28	誕生会
	30	支援員会議

5月	7,14	ケース会議
	19	献立会議
	21	担当者ケース会議
	28	職員会議 虐待防止委員会
6月	4,11	ケース検討会
	16	JOO療育講座研修
	17	献立会議
	18	支援員会議,業務会議
	25	職員会議 虐待防止委員会(中止)
7月	1,9,30	ケース会議(中止)
	15	誕生会,献立会議
	16	担当者会議
	23	職員会議 虐待防止委員会(中止)

*料理教室 6月(利用者と職員で)

*音楽活動 3、5、6、7月

(利用者と職員で)

<令和2年度 決算報告>

○詳細は、電子開示システムをご覧ください。

貸借対照表

令和3年3月31日現在

社会福祉法人あさひ会

(単位:円)

資産の部		負債の部	
勘定科目	当年度末	勘定科目	当年度末
流動資産	114,386,601	流動負債	26,135,868
現金預金	81,522,476	事業未払金	15,591,645
事業未収金	30,754,720	1年以内返済予定設備資金借入金	2,688,000
貯蔵品	355,104	預り金	1,343,736
立替金	26,096	職員預り金	535,087
前払費用	1,728,205	賞与引当金	5,977,400
固定資産	339,834,810	固定負債	26,880,000
基本財産	221,790,504	設備資金借入金	26,880,000
土地	65,315,716		
建物	156,474,788		
その他の固定資産	118,044,306	負債の部合計	53,015,868
建物	8,070,007	純資産の部	
構築物	11,921,160	基本金	149,172,638
機械及び装置	1,986,400	国庫補助金等特別積立金	77,448,013
車輛運搬具	1,456,526	その他の積立金	81,604,720
器具及び備品	8,292,646	次期繰越活動増減差額	92,980,172
権利	1,366,088	(うち当期活動増減差額)	-22,886,539
ソフトウェア	896,694		
投資有価証券	507,411		
積立資産	81,604,720		
長期前払費用	1,571,986		
その他の固定資産	370,668	純資産の部合計	401,205,543
資産の部合計	454,221,411	負債及び純資産の部合計	454,221,411

事業活動計算書

(自)令和2年4月1日 (至)令和3年3月31日

社会福祉法人あさひ会

(単位:円)

		勘定科目	当年度決算(A)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	2,051,320	
		障害福祉サービス等事業収益	200,669,720	
		経常経費寄附金収益	985,752	
		その他の収益	9,000	
		サービス活動収益計(1)	203,715,792	
	費用	人件費	181,530,398	
		事業費	21,296,185	
		事務費	11,560,723	
		減価償却費	20,439,795	
		国庫補助金等特別積立金取崩額	-6,367,873	
		サービス活動費用計(2)	228,459,228	
		サービス活動増減差額(3) = (1) - (2)	-24,743,436	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	23,182	
		投資有価証券評価益	218,625	
		その他のサービス活動外収益	2,316,739	
		サービス活動外収益計(4)	2,558,546	
	費用	支払利息	108,580	
		その他のサービス活動外費用	1,211,752	
		サービス活動外費用計(5)	1,320,332	
			サービス活動外増減差額(6) = (4) - (5)	1,238,214
			経常増減差額(7) = (3) + (6)	-23,505,222
	特別増減の部	収益	その他の特別収益	7,088,484
特別収益計(8)			7,088,484	
費用		固定資産売却損・処分損	1	
		その他の特別損失	6,469,800	
		特別費用計(9)	6,469,801	
		特別増減差額(10) = (8) - (9)	618,683	
		当期活動増減差額(11) = (7) + (10)	-22,886,539	
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)		107,886,711	
	当期末繰越活動増減差額(13) = (11) + (12)		85,000,172	
	基本金取崩額(14)		0	
	その他の積立金取崩額(15)		8,980,000	
	その他の積立金積立額(16)		1,000,000	
	次期繰越活動増減差額(17) = (13) + (14) + (15) - (16)		92,980,172	